

令和5年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	30	学校名	仙台市立若林小学校	校長名	見田 佳代
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のテーマ

「広瀬川の自然に学ぼう」



2 取組の紹介

若林小学校は杜の都仙台のシンボルである広瀬川の河川敷のすぐ側にあり、校舎からは、美しい川の流れや河川敷を歩く人々の様子を見ることができます。

本校では、広瀬川や河原を利用した学習を継続的にしています。

1・2年生は、生活科の学習で河原で虫や生き物を捕まえて観察しています。春・夏・秋・冬と季節を変えて何度も訪れることで、1年を通しての変化を学び、水辺の自然や生き物に興味を持つようになっています。

3年生では、「広瀬川を知ろう」（総合的な学習の時間）という学習に取り組みます。10月に、NPO カワラバンからゲストティーチャーをお招きして、体験学習を行いました。川で安全に活動する方法を学び、川に住んでいる生き物探しをしました。広瀬川でモクズガニやスジエビ、アブラハヤなどを見つけました。また、ゲストティーチャーから広瀬川について学び、特に興味を持った川の生き物については、更に観察を深め、図鑑やクロムブックなどで一人一人調べて、紙芝居やスライド、ペープサートなどにまとめ、発表する活動を行っています。

特別支援学級では、学級活動として、河原に散歩に出かけ、川の流れの音に耳を傾けたり、川面を吹く風を感じたりしています。

一方、防災の観点から、大雨や風が強いときなどは川の流れ方や水の色、水位にも関心を持たせ、どのような危険があり、命を守るためにはどのような行動を取ったらよいかを考えさせています。災害に備え、着衣水泳を実施したり、垂直避難訓練を実施したりしています。

3 取組の成果（児童生徒の変容）

校庭と河原はフェンス1枚で区切られていますが、河原に生息する植物が風に乗って種を運び、校庭に同じように芽吹き、花を咲かせたり実をつけたりしています。また、昆虫も河原から飛んできて、低学年児童は日常的に虫捕りを楽しんでいます。

授業のなかで児童が、校庭の延長のように河原に出かけ川に親しむことは、広瀬川流域における動植物など豊かな自然環境に興味を持ち、広瀬川が自分たちにとって身近な存在であることを再認識することにつながっています。

